

## 8月例会報告

【日 時】2000年8月10日(木)19:15~21:40 筑波大学附属高校3F会議室→21:50~2:00 カリンカ

【参加者】宇都宮徹尨(写真家)、加能裕一郎((株)トラップドア)、小宮敏浩(関東社会人サッカーリーグ・エリース FC 東京)、鈴木崇正(NEC クリエイティブ)、田中理恵((株)日本能率協会総合研究所)、中塚義実(筑波大学附属高校)、長岡茂(JAWOC 茨城支部)、笛木寛(大学講師)、三堀潔貴(都立北野高校)、宮崎雄司(サッカーマニア編集長)、吉池淳(CCC(株))

【新規参加者】竹原典子(保健婦/サッカーボランティア)、西谷玲奈(立教大学)

【カリンカからの参加者】浜村真也

注)参加者は、所属や肩書を離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあくまでもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものではありません。

何をもって「スポーツイベントの成功」とするのか

高橋義雄 (名古屋大学)

【はじめに】

オランダ・ベルギーの共催となったユーロ 2000 はサッカー雑誌的には「腐りやすい」テーマである。フランスがどうだったとかポルトガルはこうだったという話はすでに取り上げられなくなっている。しかし、「共催」という点については 2002 年ワールドカップにも参考になる点が多いだろう。また、「スタジアムの外」の風景は、メディアにはあまり露出しな部分ではあるが、もっと目を向けるべきである。ワールドカップがやって来るというのがどういう事なのか。それを現実的なものとして見せてくれるのがスタジアムの外であろう。オランダ、ベルギーで撮影した写真 50 点をスライドで説明した後、ディスカッションを行いたい。(以上、宇都宮氏)

【スライド内容 (一部)】

●開幕前日のアヤックス・アリーナ (外側から) ●スタジアム周辺の仮設トイレ ●ショップ ●練習場 ●スタジアム近郊の風景 (牛が草をはむ) ●警備の様子 (騎馬警官) ●広場でたむろするサポーターの群 ●広場に残されたゴミの山 (日本でもこういう光景が・・・?) ●イングランドサポーター (裸、入れ墨、大声、集団) ●大会マスコット (ベネルッキ君) ●シャルルロワの噴水 ●アーネムのスタジアム (床が動く) ●スタジアム入り口 (チケットを差し込んでチェックする) ●各国サポーター・・・等々

【ディスカッションのテーマ】

- 1.ネーションズカップに未来はあるか？
- 2.共催という運営方法はベストだったか？
- 3.ゲストとホストの関係について
- 4.私たちはこれから何をすべきか？

#### 1.ネーションズカップに未来はあるのか？

●クラブサッカーが潤沢な資金を背景に活況を呈する中、ワールドカップのような国別対抗戦はこれまでのように魅力ある存在であり続けることができるのか？

●「国別対抗戦はこれから廃れていく」という意見もあるが、スポーツイベントとしては普遍だと思う。選手が価値を上げる品評会の場になる。共存は可能。

●日本の選手育成システムは代表の強化（国別対抗戦）を想定している。しかしメインがクラブサッカーになっていくとするならば、強化の柱の立て方を考えなければならない。

●クラブと代表チームの利益が対立することがあるが、スペインなどではどうか？

→対立はある。

●スペインサポーターは代表のユニフォームを着ていない人が多い。その代わりに、バルサ、レアル、ビルバオなどを着ている。

→スペインは地域性が強く、一つの国としてのアイデンティティーが発揮できないところなのかもしれない。

●そもそも「ネーション（国家）」というのは恣意的な区切り方であり、文化的区切り方ではない（「バスク人」「言語」等）。

→21世紀の「ネーションズカップの在り方」は、21世紀の「国家の在り方」とリンクしてくる。

→「カタルーニャ」や「バスク」などでFIFAに加盟したいという動きはあるらしいが、2006年までは現行の204協会以上にはしない予定（FIFA）。

●以前は「クラブ＝ローカル」であったが、ボスマン判決以降、クラブはグローバル化の象徴になった。

→逆にネーションサッカーの方がローカル色が強く出ている。そういう意味では、その国に住む人はネーションに対する思い入れが強くなるのではないか。

●国を越えたリーグを設立できないか？例：極東リーグ（日本、韓国、朝鮮）

→一国一リーグという規定があるから不可能だろう。

#### 2.共催という運営方法はベストだったか？

●今回のユーロは「共催」というよりは「分催」ではなかったか。各々の国が勝手に盛り上がっていたような感じ。

●ベルギー国内はあまり盛り上がっていなかった。

●チケットの値段は両国でほとんど同じだった。

●言葉について：オランダでは英語が通じる。ベルギーはフラマン語（オランダ語に近い言葉）とフランス語。

### 3.ゲストとホストの関係について

●オランダ人は寛容な国民性で人種差別はほとんどない（教育の成果）。

→オランダ人のようなある種の寛容さ、包容力などが 2002 年は試されることになるだろう。

●ベルギーのボランティアは良く教育されていた。話し方や接し方等。できる限りの情報をくれる。

→日本でこういう対応ができるか？

●警備について：ベルギーでは警察主導のピリピリしたムードで警備が行われた。オランダは国内リーグの騒ぎに慣れているためか、落ち着いた雰囲気での警備だった。

→イングランドサポーターはシャルルロワ（ベルギー）で暴れたが、アイントホーヘン（オランダ）では暴れなかった。

→両国の警備の仕方からくる結果だったのか？サポーターはその場の雰囲気をすぐに察知する。

→逮捕されたイングランド人（800 人）ほとんどが初犯であり、きちんと職業を持っている人が多数であった。彼等は「フーリガンとしてやって来た」のではなく、雰囲気に押されて「フーリガンになってしまった」のではないか。

→警備等のやり方を考える必要がある。

●熱いのはイングランドサポーターだけではない。トルコやギリシャなども。

●オランダにはオランダ在住のトルコ移民が大勢集まった。日本でも同じことが起こるだろう（実際、横浜で行われたイラン戦は、イランサポーターが多く集まった）

●フーリガンは形があるからまだ良い。政治的テロリストが入ったら本当に怖い。対処の仕様が無い。

●騎馬警官（オランダ）の効果は何か？

→馬は強く、高さがある。群衆がなだれ込んできてもガード、威嚇できる。

●チケットを持っていれば交通機関は無料（ベルギー）

→開催自治体の努力の成果。日本でできるか？

→無料化は自治体の努力次第。開催都市を繋ぐ JR では難しいだろう。

●公園でたむろし、ゴミを散らかすサポーターが実際に来る。日本国民に対する事前の啓蒙活動が必要だ。

### 4.私たちはこれから何をすべきか？

●ワールドカップのイベントが各地で行われているが、ソフトが欠如している。

→写真、音楽、絵画、風刺漫画など、ワールドカップを伝えるための媒体は様々だ。

→イベントで過去のワールドカップの試合が流されたりするが、それはスタジアム内だけの話。「人を狂わせる」ワールドカップの現実（写真のような）を伝える必要がある。

●ベルギーで見たユーロスポーツ（スポーツニュース）の番組が素晴らしかった。試合分析を交えて質の高い内容だった。

→レベルが決して高いとは言えない日本のテレビ局が世界に放映できるような中継番組を作れるだろうか。そういう部分の拡充もしていく必要がある。

→テレビ局はもっと努力をすべきだ。

→テレビ局だけの問題ではなく、日本の「総合力」が表れているだけだ。例えば、スポーツ医学やスタジアム建設などにも同じ事が言える。

（以上）（製作：笛木寛）

### <中塚の感想・意見>

サッカーが 20 世紀において人々の最大の娯楽であったのは、ゲームそのものの面白さだけでなく、人々の帰属意識、アイデンティティをくすぐる仕掛けがあったことも大きな理由として挙げられる。「地域」、あるいは「社会的階層」「民族」「宗教」を同じくする者によるローカル・アイデンティティを満足させてくれる「クラブサッカー(地域対抗戦)」と、「国家」に対するナショナル・アイデンティティを満足させてくれる「ネーションサッカー(国別対抗戦)」が絶妙のバランスで共存していたのが、20 世紀のサッカーシーンであった。

それが 21 世紀を目前にしてずいぶん様子が変わってきた。(一部の)クラブは、もはやローカルを代表する存在でではなくなりつつあるし、国境なきボーダーレス時代にあって、ネーションサッカーの位置づけも変わってきた。宇都宮さんが、21 世紀のネーションズカップの行方を探るという問題意識を抱いたのもよくわかる。

「これからはクラブサッカーが主流であり、国別対抗戦は廃れて行くだろう」という見方がある。確かにそうかもしれない。しかし、私がテレビで EURO2000 をみて思ったのは、何だかんだいってもネーションサッカーはおもしろいし、今後とも不滅であろうということである。フランスやポルトガルなどの「国別対抗戦」そのものもおもしろいし、ここで活躍した選手が、大会後のクラブサッカーにおいて、(国境を越えて)どのように組み合わされ、どのようなサッカーを展開してくれるのかを想像するだけでも楽しめる。クラブサッカーとネーションサッカーは 21 世紀において、新しいバランスを保ちながら充分共存できると感じた。

ところで、「誰もがテレビで楽しめた」ことも、サッカーが 20 世紀(の後半)にこれだけ発展してきた要因の一つである。しかし、日本で EURO2000 をTV観戦できたのは WOWOW 加入者(とその友達)だけであった。このことの方に、ネーションサッカーの危機を感じる。ネーションサッカーは誰もが見られる公共性の高いイベントとして認知されるのか、それとも特定の人しか見られないイベントとなっていくのか。クラブサッカーとネーションサッカーの新しい関係は、テレビ視聴のあり方と大いに関係するだろう…というような、ちと理屈っぽいことを考えていました。

宇都宮さんは、サロンの翌々日より再び旅に出ました。また報告して下さいね。楽しみにしています。